

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ							授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	西田 雅美								ICT活 用	○	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。										
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。										
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。										
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導										
授業計画 【第2回】	第2回 読解1 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。										
授業計画 【第3回】	第3回 読解2 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。										
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマと背景1 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。										
授業計画 【第5回】	第5回 先行研究1 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。										
授業計画 【第6回】	第6回 発表準備1 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。										
授業計画 【第7回】	第7回 学生生活2／発表準備2 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 【場所：ゼミ担当教員の研究室】 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。										
授業計画 【第8回】	第8回 グループ発表（合同ゼミ） グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。										
授業計画 【第9回】	第9回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。										
授業計画 【第10回】	第10回 研究デザイン1（全体ゼミ） ①研究デザインについて理解する。										

授業計画 【第11回】	第11回 研究デザイン2 ①研究デザインについて理解する。 ②教員の研究のポスターセッションに参加し、研究方法について理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 研究テーマと背景2／先行研究2 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	第13回 先行研究3／研究概要作成 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。 ③研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。
授業計画 【第14回】	第14回 研究概要作成と発表 ①研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	第15回 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ						授業形態	演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士							ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにあります。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となります（「子ども教育専門ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま本意な大学生活を過ごす事態に陥り易いことが予想されます。「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要です。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的としています。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していきます。								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行います。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表します。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明します。								
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導								
授業計画 【第2回】	第2回 読解1 ①読解の意義について理解します。 ②専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解します。								
授業計画 【第3回】	第3回 読解2 ①課題となった文献を要約し、発表します。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握します。								
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマと背景1 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認します。 ②グループの研究テーマを決定します。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理します。								
授業計画 【第5回】	第5回 先行研究1 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解します。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめます。								
授業計画 【第6回】	第6回 発表準備1 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめます。 ②グループで発表するための準備をします。								
授業計画 【第7回】	第7回 学生生活2／発表準備2 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 【場所：ゼミ担当教員の研究室】 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめます。 ②グループで発表するための準備をします。								
授業計画 【第8回】	第8回 グループ発表（合同ゼミ） グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論します。								
授業計画 【第9回】	第9回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘みます。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行います。								
授業計画 【第10回】	第10回 研究デザイン1（全体ゼミ） ①研究デザインについて理解します。								

授業計画 【第11回】	第11回 研究デザイン2 ①研究デザインについて理解します。 ②教員の研究のポスターセッションに参加し、研究方法について理解します。
授業計画 【第12回】	第12回 研究テーマと背景2／先行研究2 ①研究関心を持つテーマを決定します。 ②テーマに関する社会的背景を整理します。
授業計画 【第13回】	第13回 先行研究3／研究概要作成 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解します。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめます。 ③研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめます。
授業計画 【第14回】	第14回 研究概要作成と発表 ①研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善します。
授業計画 【第15回】	第15回 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善します。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握しておいてください。(1時間程度) (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料を作成しておいてください。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めるようにしてください。(1時間程度) (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むようにしてください。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断します。(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断します。(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断します。(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回の資料を配布します。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ							授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	渡邊 光浩									ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。										
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。										
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。										
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導										
授業計画 【第2回】	第2回 読解1 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。										
授業計画 【第3回】	第3回 読解2 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。										
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマと背景1 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。										
授業計画 【第5回】	第5回 先行研究1 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。										
授業計画 【第6回】	第6回 発表準備1 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。										
授業計画 【第7回】	第7回 学生生活2／発表準備2 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 【場所：ゼミ担当教員の研究室】 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。										
授業計画 【第8回】	第8回 グループ発表（合同ゼミ） グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。										
授業計画 【第9回】	第9回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。										
授業計画 【第10回】	第10回 研究デザイン1（全体ゼミ） ①研究デザインについて理解する。										

授業計画 【第11回】	第11回 研究デザイン2 ①研究デザインについて理解する。 ②教員の研究のポスターセッションに参加し、研究方法について理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 研究テーマと背景2／先行研究2 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	第13回 先行研究3／研究概要作成 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。 ③研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。
授業計画 【第14回】	第14回 研究概要作成と発表 ①研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	第15回 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500＋税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus												
シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科			
科目名称	子ども教育ブレゼミ							授業形態 <td colspan="2">演習</td>		演習		
科目コード	750113	単位数	2単位		配当学年	2		実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃										ICT活用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために、入門ゼミで習得したスキルを活用しながら研究のプロセスを実践し、知識とアカデミックスキルを深化させることにある。 3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）が、速やかに研究活動に着手できるよう2年次には必要なアカデミックスキルをすべて習得しておく必要がある。また「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はこれらの研究過程を理解したうえで、他ゼミ生との対話や協働的学びを通して段階的に経験することで、「研究とは何か」「自分は何を、どのように研究したいのか」を見出し、研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していくことを目的とする。											
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。											
授業の進め方 と方法	第2回～第3回では、今後の学びの課題を把握し、専門的な論文の読解を通してそのスキルを習得する。 第4回～第8回では、ゼミ担当教員の研究テーマの大枠のなかで個人テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第9回～第15回では、卒業研究や教員の研究デザインについて学んだ後、自分が関心のある研究テーマを決めて、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。なお、このテーマは3年次のゼミ選択と直接関係はないので自由に設定してよい。											
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導											
授業計画 【第2回】	第2回 読解1 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。											
授業計画 【第3回】	第3回 読解2 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。											
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマと背景1 ①担当教員の研究テーマをゼミの研究テーマとして設定する(言葉、自然、ICTなどゼミ特有のテーマとする)。 ②ゼミの研究テーマの枠のなかで、各自の興味関心をもとにアプローチの方法を決め個人テーマを作成する。 ③個人テーマに必要な文献(先行研究)を複数探す。											
授業計画 【第5回】	第5回 先行研究1 ①個人テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。											
授業計画 【第6回】	第6回 発表準備1 ①個人テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②各自のプレゼンテーションの内容をゼミで共有し、統合したグループ発表の構成を考える。											
授業計画 【第7回】	第7回 学生生活2／発表準備2 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 【場所：ゼミ担当教員の研究室】 ①グループ発表の構成に沿ってプレゼンテーションを統合してグループ発表のプレゼンテーションを完成させる。 ②グループで発表するための準備(プレゼン練習)をする。											
授業計画 【第8回】	第8回 グループ発表(合同ゼミ) グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。											
授業計画 【第9回】	第9回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。											
授業計画 【第10回】	第10回 研究デザイン1(全体ゼミ) ①教員のプレゼンテーションから研究デザインについて理解する。											

授業計画 【第11回】	第11回 研究デザイン2 ①研究デザインについて理解する。 ②教員の研究のポスターセッションに参加し、研究方法について理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 研究テーマと背景2／先行研究2 ①研究関心を持つテーマを各自で決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	第13回 先行研究3／研究概要作成 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。 ③研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、研究したい具体的なテーマと方法を研究概要としてまとめる。
授業計画 【第14回】	第14回 研究概要作成と発表 ①研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	第15回 研究室訪問（多面的に学ぶために3年次ゼミ選択とは関係なくこちらで振り分ける） 2名の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1時間程度 （解説前）事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 （実践指導前）提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	1時間程度 （解説後）学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 （実践指導後）指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	（オリエンテーション等）提出物及び受講態度から判断する（30点） （解説）出席時のミニレポートや提出物から判断する（各回4点×5回＝20点） （実践指導）課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する（各回10点×5回＝50点）
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 （ミネルヴァ書房、¥2500＋税）
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	川田 耕太郎								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	第1回 学生生活1 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 読解1 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第3回】	第3回 読解2 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第4回】	第4回 研究テーマと背景1 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第5回】	第5回 先行研究1 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第6回】	第6回 発表準備1 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第7回】	第7回 学生生活2／発表準備2 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 【場所：ゼミ担当教員の研究室】 ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	第8回 グループ発表(合同ゼミ) グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									
授業計画 【第9回】	第9回 卒業研究中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	第10回 研究デザイン1(全体ゼミ) ①研究デザインについて理解する。									

授業計画 【第11回】	第11回 研究デザイン2 ①研究デザインについて理解する。 ②教員の研究のポスターセッションに参加し、研究方法について理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 研究テーマと背景2／先行研究2 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	第13回 先行研究3／研究概要作成 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。 ③研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。
授業計画 【第14回】	第14回 研究概要作成と発表 ①研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	第15回 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態	演習		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	河野 康男								ICT活用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	吉田 健								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	第1・2回では、入門ゼミを基礎に2年次の取り組みについて話し合いをする。履修の確認、ゼミ相互の確認事項。 第3回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 顔合わせ、オリエンテーション、学生生活指導、履修指導 入門ゼミとのつながりについて									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入門ゼミを踏まえて、2年生の生活についてのディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(論文レベル)の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①グループ研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究を探索し、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループ内で研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究に対し、関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	後藤 吉道								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	関連する科目□ 子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	授業の方法と進め方□ 第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。 －(5)
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回＝20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回＝50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500＋税)
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ						授業形態		演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								ICT活 用	
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。 2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育ブレゼミ						授業形態		講義・演習	
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	神垣 彬子								ICT活 用	○
授業概要	本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。 「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修する。									
授業の進め方 と方法	第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。 第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。 第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。									
授業計画 【第1回】	第1回 1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	第2回 2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	第3回 3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	第4回 4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	第5回 5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	第6回 6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	第7回 7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	第8回 8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	第9回 9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	第10回 10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	第11回 11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	第12回 12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	第13回 13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	第14回 14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	第15回 15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること(30分程度)。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと(30分程度)。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること(30分程度)。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと(30分程度)。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する(30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する(各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する(各回10点×5回=50点)
テキスト	適宜紹介する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	